

## 三重大学人文学部外部評価 総評

井上博夫（岩手大学人文社会科学部長）

三重大学人文学部は、不断の教育改革に取り組まれるとともに、その成果を検証するため外部評価を継続的に行われています。また、連続企画「あなたの学びを応援します」などの意欲的な取り組みを行っておられることを高く評価したいと思います。そのうえで、今回の外部評価における主な評価項目である、(1)学力向上支援、(2)授業外における学生支援、(3)留学生及び留学支援について意見を述べます。

### (1) 学力向上支援（授業における質の保証確保の取り組み）について

- 文化学科における4地域の文化研究を前面に押し出した形の改革（2012年度実施）、社会科学科から法律経済学科への名称変更（2008年度実施）は、いずれも外部や学生から見たときのわかりやすさを重視し、専門性が見えやすい形にしたという点で納得できるものだと思います。

他方で、従来の文化学科における4つの地域研究と3つの専修をクロスさせたユニークな教育体制、旧社会科学科における学際性を重視したカリキュラムも、複合的な学部の利点を生かした、狭い専門にとらわれない総合性をめざす教育プログラムの試みとして注目すべきものでした。ただ、その理念をカリキュラムとして具体化し学生に提供する点において困難が伴ったのではないかと推測されます。したがって、改革後の教育プログラムにおいても、総合性・学際性の理念を追求する努力は継続されることを期待します。例えば、地域横断的な比較文化の視点や、法律と経済の協働による地域課題への取り組みなどは魅力的かと思われます。その際、単に学生の自由な選択に任せるのではなく、目的意識的なカリキュラムをつくる必要があります。私たちの学部は、創設以来「総合性」を学部の特徴と位置付けてきましたので、そうした先進的な取り組みに私たちも学びたいと思います。

- FD活動について

授業アンケートは、今日ではどこの大学でも実施されているようですが、それを授業改善に有効に結びつけている大学はそう多くないのではないかと思います。貴学部では、授業アンケートをもとに、前期及び後期に各履修プログラム単位で研修会を開催しておられます。ほとんどの教員が出席して、具体的な問題について意見交換を重ねる研修は、授業改善につながる有効な取り組みではないかと思います。

- 積極的な学びについて

両学科のディプロマポリシーを拝見すると、①専門的知識と教養、②論理的・総合的判断力、③探求心と課題に挑戦する積極性、④発信力と社会発展への貢献、を人材養成目的として学力向上支援に取り組まれているものと拝察されます。なかでも、変化のスピードの速い今日の社会にあっては、③の積極的学びを通じて自ら成長し続ける力を身につけることが重要と思われます。

その意味で、貴学部では、少人数授業と現地調査型授業（演習）が様々行われている点が評価されます。こうした積極的学びへの取り組みが多くの教員に共有され、積極的学びの機会が入学時から卒業まで系統的に配置されたカリキュラムとなることを期待します。

## （２）授業外における学生支援について

### ○ 就職支援について

貴学部卒業生の就職先は地元東海地方が多く、地域社会も三重大学人文学部に対して、地域で活躍する人材の輩出を期待しているように思われます。であれば、三重・東海地域に立地する国立大学の役割の一つとして、就職支援も地域と大学を結ぶ活動という観点からとらえる必要があると感じました。

その点で、「地元企業との懇談会」は、評価できる取り組みではないかと思います。岩手大学の学生も地元志向が強いですが、公務員や一部企業を除けば、地元どんな企業があるのかをよく知らない（教員も）、というのが現状ではないかと思われます。そこで、「企業合同セミナー」の開催だけではなく、小さくてもキラッと光る地元企業の開拓と紹介ができればおもしろいと感じました。

### ○ 学部長と語る会について

毎年「学部長と語る会」を開催し、学生から出された意見に誠実に応えて、着実に改善を進めておられることに敬意を表します。私たちの大学でも見習わなければならないと思います。

## （３）留学生及び留学支援について

### ○ 国際交流の多様な機会を

グローバル化の進展にも関わらず、学生の留学や海外経験の実績は必ずしも増加していません。その原因には、経済面、語学力の不足、学生の意欲など様々な問題があると思われます。そこでまず、学生が気軽に経験したり空気に触れたりすることのできる、多様な国際交流の機会を設けることが必要ではないかと思います。そこで、長期留学だけではなく、語学研修や国際交流プログラムを設けていること、三重大学にいながらにして体験できる「タンデム・ラーニング」や「プチ・ランゲージカフェ」などは有効な取り組みと思われます。

さらに、海外体験も、大学で学ぶだけではなく、課題解決・現地調査型学習の海外バージョンを企画できるとおもしろいと思います。

### ○ 言語能力アップの取り組み

上記とあわせて、言語能力アップが求められますが、そのためには、①目標レベルの設定、②それにあわせたカリキュラムと学習機会の整備、③言語能力のモニタリングが必要と思われます。今後の取り組みを期待します